

夢のつばさプロジェクト 2014 年冬のキャンプ 実施報告書

【日程】 2014 年 12 月 23 日（火）～26 日（金）

【開催地】（株）ブリヂストン保養所奥多摩園（青梅市）／他活動地：青梅市民会館、沢井市民センター 体育館

【参加者】小学生 18 名、中高生 8 名、ボランティア大学生 26 名（途中入替りを含む）、社会人ボランティア・協力者 15 名

【活動概要】

12 月 23 日	開会式、クリスマス会
12 月 24 日	朝の勉強会、海外の文化に触れる（タイ王国紹介、料理体験）
12 月 25 日	運動会、大学生が行う授業、音楽会（フルート・バイオリン・ピアノ）
12 月 26 日	閉会式、写真スライドショー

・**送迎**：大学生ボランティアと社会人ボランティアが 3 班に分かれて、盛岡、仙台、郡山に送迎を行いました。子どもたちを連れて東京へ向かう途中、『強風のため、新幹線は一時運転見合わせ』という状況になりました。「すわ車内に缶詰めか！」とあわてましたが、ほどなく運転再開して、無事、奥多摩園に到着し、何とか 1 日目のプログラムを実施することができました。キャンプ行事も回数を重ね、子どもたちも送迎スタッフも移動に慣れてきたように感じますが、緊急時への備えを忘れないようにしたいと思います。

・**開会式**：「仲良く楽しむクリスマス」をテーマに今回のキャンプは始まりました。そして、「集った仲間達で親しく話をしたり、いろいろなプログラムと一緒に思い切り楽しんだりするために、キャンプ中はテレビゲームや携帯電話は使わないことにしよう」と話し合いました。アイスブレイクゲームでは、チームに分かれてじゃんけん勝ち抜きをしたり、手をつないで輪になって、互いにくぐったりまたいだりして絡まった人間知恵の輪をほどこいたりして楽しみました。

・**クリスマス会**：ブリヂストン保養所の大きな研修室に、2 本のクリスマスツリーを用意して、みんなで飾り付けをしました。クリスマス気分が盛り上がったところで、今年もサンタさんが訪れて、子どもたちにプレゼントを渡しました。今年もこのように、みんなが楽しみにしているクリスマス会を催すことができたのは、夢のつばさに心を寄せてくださる皆様のご支援の賜物と、改めて感謝の念を深くいたしました。

毎回、子どもたちへプレゼントをご提供くださる（株）サンリオ様をはじめ、同じくプレゼントをお届け頂いた（株）トータス様、クリスマス会を盛り上げてくださったガッツ埼玉の皆様などのご尽力で、いっそう華やかな会になりました。

・**異文化や新しい文化に触れる**：2 日目は、スニサー ウィッタ ヤーパンヤーノンさん（東京外国語大学客員准教授）が、タイ王国について紹介してくださいました。クイズやパフォーマン



スを交えながら、国の概況や人々の暮らし、タイ語の挨拶を学び、タイの文字で自分の名前を書いて、自分宛の年賀状を作成しました。

午後は、青梅市民会館で調理実習、ウーピーパイ（アメリカ）とトスカケーキ（スウェーデン）を作りました。調理前後には寸劇も披露され、大好評でした。スニサー先生は、トムカーガイという、ショウガの香る鶏肉のココナッツミルク煮を作ってください、海外の食文化を体感することができました。

3日目には沢井市民センター体育館で、フリスビーを使ったアルティメットやキンボールといった新しいスポーツを体験しました。チームの一体感もあり、また大学生が本気で相手になってくれるので、子どもたちはエネルギー全開で、本当に嬉しそうに動き回っていました。

・**音楽会**：音楽事務所のクライス様が、子どもたちには本物の芸術を体感してほしいと、毎回キャンプに様々な音楽家をご紹介くださいます。今回は、フルート・バイオリン・ピアノによるトリオマイアの皆さんがボランティア参加してくださいました。美しいクラシックの名曲や、おなじみのポピュラーなどを取り混ぜた演奏で、一同、素敵な時間を過ごしました。桐朋学園大学に在学中の若い彼女たちは、最後には気軽にイントロクイズを演奏してくださり、子どもたちはアニメの主題歌を聴き分けたりして大喜びしていました。



・**大学生が行う授業**：「世界一受けたい授業：大学生版」を企画し、大学生が「英語と社会」「書道：字を味わう」「ギリシア神話」「漫画キャラクターを描く」「歴史」「色と心理」「音楽」などの講師を務め、子どもたちが興味のある授業を選んで受けるというスタイルで臨みました。準備に当たっては社会人ボランティアスタッフから、「子どもたちにとっては、こちらから提供するものが、初めの知識であり、印象を形作っていくことに留意してほしい」、「科学的な態度を忘れずに内容を考えてほしい」などの助言があり、大学生はそれぞれ忙しい中で一生懸命に準備しました。

・**閉会式**：キャンプ中の写真をスライドショーにして映写し、みんなで楽しみました。宿舎で同室だった大学生から子どもたちそれぞれにメッセージカードを渡し、子どもたちと再会の約束をして、2014 冬のキャンプを終了しました。

このプロジェクトは、『子どもたちがいつも戻ってこられる「居場所」であり続ける』ことをめざして活動しています。各地から集う子どもたちがすぐにリラックスして、仲良く過ごしているのをみると、その目標はずいぶん実現してきたように感じます。これからは、子どもたちの「夢の応援」、すなわち、『自分たちが将来やりたいことを見出し、その実現に向かって自ら励む力を養う』という、もう一つの目標に向かってさらに努力して行きたいと思います。